ドリフターズの島津豊久に学ぶリーダーシップとマネジメント

歴史上の様々な偉人達が時代を超えて一つの世界に召喚され、戦いを繰り広げるドリフターズ（漂流者）と言う漫画にて、主人公である武将の島津豊久は、弾圧されているエルフの民達と共に、誘拐されたエルフ族の女性、子供達を取り戻しに行く直前に、エルフ達に向かって言いました。

「女房子供を取り返せ。それで初めて畜生ではなくなる。お前達を畜生に堕とした奴ばらめの首を取れ。この世に正と邪があるならばこれは正ぞ。」

「たとえ死んだとてあの世で父祖にこう言える。闘って死んだと。家族を守ろうとして死んだと。女房を取り返せ。子を取り返せ。国を取り返せ。己を取り返せ。」

この言わば演説には、人間を駆り立てる、内なるモチベーションを引き出す、心理学的な訴求が幾つか組み込まれております。

まず「女房子供を取り返せ」と言う明確な目的と大切な人を守りたいと言う欲求への訴求（Dan Pink motivation）（LF8）

「それで初めて畜生ではなくなる。お前達を畜生に堕とした奴ばらめの首を取れ。」と言う地位やステータス欲求への訴求（SCARF）

「この世に正と邪があるならばこれは正ぞ。」と言う必然性の欲求への訴求（SCARF)

「たとえ死んだとてあの世で父祖にこう言える。闘って死んだと。家族を守ろうとして死んだと。」と言う危機回避欲を薄める訴求

そして「女房を取り返せ。子を取り返せ。国を取り返せ。己を取り返せ。」と言う闘争欲への訴求。

と言うように、組織のリーダーやマネジメントをする立場の人間であらば、組織を構成する人間の動機（欲求）を考えてみると良いかもしれません。何故なら、強い動機があってこそ、人は全力で行動し、行動し続ける事が出来る。リーダーやマネージャーであるならば、組織の成功の確率を上げるために、組織の人間達には力を発揮してもらいたものでしょう。だからこそ、人間が生物学的に持つ動機を勉強し、動機から逆算して、「どのように人を動かせば良いのか？」「何をすればモチベーションが上がるのか？」と言う事を考え、島津豊久のように、人を駆り立てる事が出来る武将になる事が組織成功への道の一つではないでしょうか？